

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	解剖学	2 (45)		
科目のねらい	人体は、構造的に連続した器官系統でできており、機能的にはそれらの系統が互いに関連しあって高度な身体機能が営まれている。看護の対象である人間を理解するために、身体的側面である人体の器官系を学ぶ。			
授業目標	1. 人体各部位・器官の名称と、構造の特徴を説明できる。 2. 人体の構造が理解できる			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能 [解剖生理学] 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	人体のあらましと解剖学用語を理解できる。			講義
2	人体の部位の名称・位置関係について理解できる。			講義
3	人体の最小単位である細胞の構造が理解できる。			講義
4	骨格系の構造が理解できる			講義
5	骨格系の構造が理解できる			講義
6	筋系の構造が理解できる			講義
7	筋系の構造が理解できる			講義
8	循環器系の構造が理解できる			講義
9	循環器系の構造が理解できる			講義
10	呼吸器系の構造が理解できる			講義
11	呼吸器系の構造が理解できる			講義
12	消化器系の構造が理解できる			講義
13	消化器系の構造が理解できる			講義
14	泌尿器系の構造が理解できる			講義
15	泌尿器系の構造が理解できる			講義
16	生殖器の構造が理解できる			講義
17	生殖器の構造が理解できる			講義
18	内分泌系の構造が理解できる			講義
19	内分泌系の構造が理解できる			講義
20	神経系の構造が理解できる			講義
21	神経系の構造が理解できる			講義
22	感覚器の構造が理解できる			講義
23	感覚器の構造が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	生理学	2 (45)		
科目のねらい	人間の正常な生理機能、防御機構を学習し、看護実践の基礎となる疾患の病態生理基礎を理解する。			
授業目標	1. 人体の正常な機能が理解できる。			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 人体の構造と機能〔解剖生理学〕 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	消化と吸収のしくみが理解できる			講義
2	消化と吸収のしくみが理解できる			講義
3	呼吸のしくみが理解できる			講義
4	呼吸のしくみが理解できる			講義
5	循環のしくみが理解できる			講義
6	循環のしくみが理解できる			講義
7	腎臓の機能とその調節が理解できる			講義
8	腎臓の機能とその調節が理解できる			講義
9	体温とその調節が理解できる			講義
10	体温とその調節が理解できる			講義
11	内分泌の各種ホルモンの種類と調節が理解できる			講義
12	内分泌の各種ホルモンの種類と調節が理解できる			講義
13	内分泌の各種ホルモンの種類と調節が理解できる			講義
14	神経系による調節が理解できる			講義
15	神経系による調節が理解できる			講義
16	感覚器の作用が理解できる			講義
17	感覚器の作用が理解できる			講義
18	中枢神経による情報処理機能が理解できる			講義
19	中枢神経による情報処理機能が理解できる			講義
20	筋運動のしくみが理解できる			講義
21	筋運動のしくみが理解できる			講義
22	筋の動きと変化が理解できる			講義
23	筋の動きと変化が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	生化学	1 (30)		
科目のねらい	生体を構成している物質は、常に代謝を繰り返している。物質やエネルギー代謝について理解し、生体の恒常性がどのように保たれているかを理解することによって、生体を科学的に捉え、疾病時の異常を理解する。			
授業目標	1. 生命活動をつかさどる生体分子の構造と性状を理解する。 2. 物質・エネルギー代謝と臓器・組織間の相互作用を理解する。			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 生化学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	生体の化学の基礎知識が理解できる			講義
2	生体の化学の基礎知識が理解できる			講義
3	代謝の基本と補酵素・ビタミンが理解できる			講義
4	糖の種類が理解できる			講義
5	糖の代謝が理解できる			講義
6	脂質の種類が理解できる			講義
7	脂質の代謝が理解できる			講義
8	タンパク質の種類・働き・アミノ酸の分類が理解できる			講義
9	タンパク質の代謝・アミノ酸の代謝・ビリルビン代謝が理解できる			講義
10	遺伝子と核酸が理解できる			講義
11	遺伝子の複製・修復・組み換えが理解できる			講義
12	遺伝子の転写が理解できる			講義
13	細胞のシグナル伝達の機序が理解できる			講義
14	内分泌の生化学的基礎が理解できる			講義
15	がんの性質とがん遺伝子が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病論総論	1 (15)		
科目のねらい	科学的根拠に基づいた看護を行うためには、患者の持つ疾患の病態について正しく認識することが必要である。そのための病理学的な視点で病気の成り立ちと病的変化について学習する。			
授業目標	1. 病気の成り立ちと病的変化が理解できる			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 病理学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	病理学の概要が理解できる			講義
2	細胞・組織の障害と修復、炎症が理解できる			講義
3	免疫、移植と再生医療が理解できる			講義
4	感染症の成り立ちが理解できる			講義
5	循環障害が理解できる			講義
6	代謝障害が理解できる			講義
7	老化と死、先天異常と遺伝子異常が理解できる			講義
8	腫瘍の成り立ちが理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病論各論	1 (30)		
科目のねらい	科学的根拠に基づいた看護を行うためには、患者の持つ疾患の病態生理について正しく理解することが必要である。人体の正常な構造と機能の破綻により、症状や疾病が引き起こされる経過を理解する。			
授業目標	1. 主要な症状の病態生理について理解する			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 病態生理学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	病態生理学を学ぶための基礎知識が理解できる			講義
2	皮膚・体温調節のしくみと病態生理が理解できる			講義
3	免疫の仕組みと病態生理が理解できる			講義
4	体液調節のしくみと病態生理が理解できる			講義
5	血液の働きと病態生理が理解できる			講義
6	循環のしくみと病態生理が理解できる			講義
7	循環のしくみと病態生理が理解できる			講義
8	呼吸のしくみと病態生理が理解できる			講義
9	呼吸のしくみと病態生理が理解できる			講義
10	消化・吸収のしくみと病態生理が理解できる			講義
11	腎・泌尿器のしくみと病態生理が理解できる			講義
12	内分泌代謝のしくみと病態生理が理解できる			講義
13	生殖のしくみと病態生理が理解できる			講義
14	脳・神経、筋肉の働きと病態生理が理解できる			講義
15	感覚器の働きと病態生理が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	治療論 I	1 (30)		
科目のねらい	疾患の治療における大きな手段として薬物療法がある。近年、患者はインフォームドコンセントにより、治療に対する理解と納得した上で、治療に能動的に参加するようになり、患者を中心としたチーム医療が求められる。薬物療法を行う上での薬理作用と使用方法について学び、患者指導の際の適切な説明ができるようにする。			
授業目標	1. 薬物動態を理解し人体に及ぼす影響が理解できる。 2. 薬物の作用、有害作用・禁忌を理解し観察・指導の注意点を理解する。			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。 DP 5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 薬理学〔疾病の成り立ちと促進〕		医学書院	
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	薬物とは何か、薬物の使用目的、看護師の役割について理解できる。			講義
2	薬の体内動態、薬の相互作用について理解できる。			講義
3	薬の有害作用、薬の管理と新薬の誕生について理解できる。			講義
4	看護業務に必要な薬の知識について理解できる。			講義
5	抗感染症薬、消毒薬について理解できる。			講義
6	抗がん剤・麻薬性鎮痛剤について理解できる。			講義
7	免疫治療薬、抗アレルギー薬、抗炎症薬について理解できる。			講義
8	末梢での神経活動に作用する薬物について理解できる。			講義
9	中枢神経系に作用する薬物について理解できる。			講義
10	心臓・血管系に作用する薬物について理解できる。			講義
11	呼吸器系に作用する薬物について理解できる。			講義
12	消化器系・生殖系・物質代謝に作用する薬物について理解できる。			講義
13	皮膚科用薬・眼科用薬について理解できる。			講義
14	救急時に使用される薬物について理解できる。			講義
15	輸液・輸血・血液製剤について理解でき、正しい計算ができる。			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	治療論Ⅱ	1 (30)		
科目のねらい	健康を維持するために食事と栄養の知識を理解する。また、疾病の治療のひとつである食事療法について学び、疾病別の栄養管理を理解する。 さらに、健康障害を持つ対象へ個別的な看護を提供するための治療過程におけるリハビリテーションの基礎的知識を習得する。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護に必要な栄養学の基礎を習得する。 2. 疾病別の栄養管理の実際について理解する。 3. 障がい・状態別リハビリテーションの実際を理解する。 4. リハビリテーションの概念と各種測定の意義を学ぶ。 			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。 DP 5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 栄養学		医学書院	
	系統看護学講座 別巻リハビリテーション看護		医学書院	
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
	(坂口) 配点：50点			
1	栄養素の種類と働きについて理解できる。			講義
2	食物の消化と栄養素の吸収・代謝・エネルギー代謝について理解できる。			講義
3	食事と食品の関連および栄養状態の評価・判定について理解できる。			講義
4	人間栄養学と栄養ケア・マネジメントについて理解できる。			講義
5	ライフステージと栄養について理解できる。			講義
6	臨床での栄養管理の実際について理解できる。			講義
7	健康づくりと食品・食事・食生活について理解できる。			講義
	(村上) 配点：50点			
8	リハビリテーション概論(定義・理念)について理解できる。			講義
9	リハビリテーション医療チーム・医療安全について理解できる。			講義
10	運動器に障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
11	中枢神経障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
12	呼吸器・循環器障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
13	感覚器に障害のある対象のリハビリテーションについて理解できる。			講義・演習
14	ADLとIADL評価・ROMについて理解できる。			講義・演習
15	リハビリテーションの実際が理解できる。			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	治療論Ⅲ	1 (15)		
科目のねらい	外科的治療、放射線治療の治療過程における必要な知識を理解する。治療に関する人体への影響を理解し、心理的・社会的側面からの対象理解の基礎とする。患者の意思を尊重し、納得のいく意思決定を支援するための基礎的な知識を習得する。			
授業目標	1. 手術療法・放射線療法による生体侵襲について理解できる。 2. 手術による機能低下・機能障害を受けた対象の生命維持と健康回復過程を理解する。 3. 放射線療法と看護の役割を学ぶ。 4. 放射線治療の概要が理解できる。			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。 DP 5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる。			
テキスト等	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果			方法
1	手術侵襲と生体反応が理解できる (第1章のB)			講義
2	麻酔法の種類と術前から術後の管理について理解できる。(第3章のA)			講義
3	外科的治療の実際が理解できる (第4章のA・B、第1章のE)			講義
4・5	術後合併症の発生機序と予防および対応について理解できる (第9章のB・C)			講義
6・7	各画像診断の特徴と見かたが理解できる (第2章～第7章の各画像診断の特徴と見かた、実際の画像についての理解)			講義
8	放射線治療の原理と基礎・有害反応が理解できる (第8章のA・B・C)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病と治療 I	1 (30)		
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、呼吸器系・循環器系の構造と機能を理解したうえで、呼吸器系・循環器系の症状と病態生理および呼吸器系・循環器系の疾患・検査・治療について学ぶ。呼吸器・循環器系の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	1. 呼吸器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 循環器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学2 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学3 循環器			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
	(向田) 配点：40点			
1	呼吸器の構造と機能、症状と病態生理が理解できる (第2章、第3章)			講義
2	呼吸器の主な検査が理解できる (第4章のA・B)			講義
3	呼吸器疾患の主な治療・処置が理解できる (第4章のC)			講義
4	呼吸器の代表的な疾患が理解できる (第5章のA・B)			講義
5	呼吸器の代表的な疾患が理解できる (第5章のC)			講義
6	呼吸器の代表的な疾患が理解できる (第5章のE・G)			講義
	(中村) 配点：60点			
7	循環器の構造と機能、症状と病態生理が理解できる			講義
8	循環器の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
9	循環器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (内科的治療)			講義
10	循環器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (外科的治療)			講義
11	虚血性心疾患の疾患の理解ができる			講義
12	心不全の疾患の理解ができる			講義
13	血圧異常の疾患の理解ができる			講義
14	不整脈の疾患の理解ができる			講義
15	弁膜症の疾患の理解ができる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病と治療Ⅱ	1 (30)		
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、消化器系・代謝、内分泌系の構造と機能を理解したうえで、消化器系・代謝、内分泌系の症状と病態生理および消化器系・代謝、内分泌系の疾患・検査・治療について学ぶ。消化器系・代謝、内分泌系の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 消化器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 代謝、内分泌系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学5 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学6 内分泌・代謝			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
	(島田) 配点：70点			
1	消化器の構造と機能が理解できる			講義
2	代表的な消化器疾患の病態生理が理解できる			講義
3	代表的な消化器疾患の症状が理解できる			講義
4	消化器の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
5	消化器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (内科的治療)			講義
6	消化器の代表的な疾患の主な治療が理解できる (外科的治療)			講義
7	食道の疾患の理解ができる (食道がん・食道アカラジア・胃食道逆流症)			講義
8	胃・十二指腸の疾患の理解ができる (機能性胃腸炎・胃炎・胃十二指腸潰瘍・胃癌)			講義
9	腸および腹膜の疾患の理解ができる (過敏性腸症候群・腸炎・腹膜炎虫垂炎・ヘルニア・腸閉塞・腸ポリープ・大腸がん)			講義
10	肝臓・胆嚢の疾患の理解ができる (肝炎・肝硬変症・門脈圧亢進症・肝不全・肝臓がん・胆石症・胆嚢炎および胆管炎・胆嚢がんおよび胆管がん)			講義
11	膵臓の疾患の理解ができる (膵炎・膵臓がん)			講義
	(伊藤) 配点：30点			
12	代表的な代謝・内分泌疾患の病態生理と主要な症状が理解できる			講義
13	代謝・内分泌の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
14	代謝・内分泌疾患の主な治療が理解できる			講義
15	代謝・内分泌疾患の理解ができる (糖尿病・脂質代謝異常・痛風・内分泌疾患・間脳・下垂体機能障害・甲状腺機能障害)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	疾病と治療Ⅲ	1 (30)		
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器の構造と機能を理解したうえで、免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器の症状と病態生理および免疫系、血液・造血器系、腎・泌尿器の疾患・検査・治療について学ぶ。これらの健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫・アレルギー・膠原病・感染症の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 血液・造血器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 3. 腎・泌尿器の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学11 アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学4 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学8 腎・泌尿器			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
1	(岡田) 配点：40点 代表的な免疫・アレルギー・膠原病の疾患の病態生理が理解できる			講義
2	代表的な免疫・アレルギー・膠原病の症状が理解できる			講義
3	免疫・アレルギー・膠原病の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
4	免疫・アレルギー・膠原病の治療が理解できる			講義
5	代表的な感染症の病態生理と症状が理解できる			講義
6	代表的な感染症の病態生理と症状が理解できる			講義
7	(猪狩) 配点：20点 代表的な血液・造血器系の疾患の病態生理が理解できる			講義
8	代表的な血液・造血器系の疾患の症状が理解できる			講義
9	血液・造血器系の疾病を診断する主な検査と治療が理解できる			講義
10	(富安) 配点：40点 腎・泌尿器の構造と機能が理解できる			講義
11	代表的な腎・泌尿器疾患の病態生理と症状が理解できる			講義
12	腎・泌尿器の疾病を診断する主な検査が理解できる			講義
13	腎・泌尿器疾患の内科的治療が理解できる			講義
14	腎・泌尿器疾患の外科的治療が理解できる			講義
15	腎・泌尿器の主な疾患の理解ができる(腎不全・糸球体腎炎・間質性腎炎・全身性疾患による腎障害・腎尿路感染症)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	疾病と治療IV	1 (30)		
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、脳・神経系・運動器の構造と機能を理解したうえで、脳・神経系・運動器の症状と病態生理および脳・神経系・運動器の疾患・検査・治療について学ぶ。脳・神経系・運動器の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	1. 脳・神経系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 2. 運動器の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学7 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学10 運動器			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
1	(藤野) 配点：50点 脳・神経系の構造と機能が理解できる			講義
2	代表的な脳・神経系疾患の病態生理と症状が理解できる			講義
3	脳・神経系の疾病を診断する主な検査と治療が理解できる			講義
4	脳・神経系の主な疾患が理解できる (脳血管障害・脳腫瘍)			講義
5	脳・神経系の主な疾患が理解できる (髄膜炎・脳炎)			講義
6	脳・神経系の主な疾患が理解できる (てんかん・認知症)			講義
7	脳・神経系の主な疾患が理解できる (パーキンソン・筋委縮性側索硬化症・筋ジストロフィー)			講義
8	(宮崎) 配点：50点 運動器の構造と機能が理解できる			講義
9	代表的な運動器疾患の病態生理と症状が理解できる			講義
10	運動器の疾病を診断する主な検査と治療が理解できる			講義
11	運動器疾患が理解できる (先天性疾患)			講義
12	運動器疾患が理解できる (骨折・脱臼)			講義
13	運動器疾患が理解できる (捻挫および脱臼)			講義
14	運動器疾患が理解できる (関節の疾患)			講義
15	運動器疾患が理解できる (脊椎の疾患)			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	疾病と治療 V	1 (30)		
授業のねらい	看護の展開に必要とされる医学的な基礎知識を学ぶことをねらいとする。この科目では、女性生殖器系・感覚器系の構造と機能を理解したうえで、女性生殖器系・感覚器系の症状と病態生理および女性生殖器系・感覚器系の疾患・検査・治療について学ぶ。女性生殖器系・感覚器系の健康問題と対象への影響を、科学的根拠によって臨床判断する際の基礎的能力となる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 女性生殖器系の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 感覚器系（皮膚）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 感覚器系（眼）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 感覚器系（耳鼻咽喉）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 感覚器系（歯・口腔）の形態や機能を踏まえ、主要な疾患・症状を病態生理学的に理解し、診断・治療・検査について理解できる 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる			
テキスト等	医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学9 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学12 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学13 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学14 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学15 歯・口腔			
評価方法	記述100%			
回	授業内容と成果			方法
1	(浦郷) 配点：20点 代表的な女性生殖器系の疾患の病態生理と主要症状が理解できる			講義
2	女性生殖器系の疾患の診断をする主な検査が理解できる			講義
3	女性生殖器系の主な疾患と治療が理解できる			講義
4	(笹平) 配点：20点 代表的な感覚器（皮膚）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる			講義
5	感覚器（皮膚）の疾患の診断をする主な検査が理解できる			講義
6	感覚器（皮膚）の主な疾患と治療が理解できる			講義
7	(大石) 配点：20点 代表的な感覚器（眼）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる			講義
8	感覚器（眼）の疾患の診断をする主な検査が理解できる			講義
9	感覚器（眼）の主な疾患と治療が理解できる			講義
10	(佐藤) 配点：20点 代表的な感覚器（耳鼻咽喉）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる			講義
11	感覚器（耳鼻咽喉）の疾患の診断をする主な検査が理解できる			講義
12	感覚器（耳鼻咽喉）の主な疾患と治療が理解できる			講義
13	(豊福) 配点：20点 代表的な感覚器（歯・口腔）の疾患の病態生理と主要症状が理解できる			講義
14	感覚器（歯・口腔）の疾患の診断をする主な検査が理解できる			講義
15	感覚器（歯・口腔）の主な疾患と治療が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	看護形態機能学 I	1 (15)		
科目のねらい	看護学においては対象の生活を整えることに責任がある。私たちの毎日の暮らしは生命に直結し、体のさまざまな機能を駆使して生活行動を行っている。そのため、1年次に学習した解剖学・生理学の知識を看護の視点で更に深く学習し、生活行動と関連させて理解することで、対象に適した生活援助の実践につなげることをねらいとする。			
授業目標	1. 人体の構造と機能を生活行動と関連づけて理解できる 2. 日常生活行動を行うために、身体各部位がどのように使われているかを理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会 看護形態機能学 ワークブック 日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験50%、アクティブラーニング評価50%			
回	授業内容と成果	方法		
1	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング		
2	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング		
3	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング		
4	人が「動く」という動作をする際に、どの器官を、どのように使っているかを説明できる	アクティブラーニング		
5	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング		
6	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング		
7	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング		
8	呼吸をするための器官とその働きが、日常生活行動にどのよう使われ、影響しているかが説明できる	アクティブラーニング		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	看護形態機能学Ⅱ	1 (30)		
科目のねらい	看護師は、健康上の理由で日常生活行動ができない対象に対し、解剖生理などの知識を用いてアセスメント、看護判断を行い、看護技術の提供を行う。アセスメントや援助を行う際には、解剖生理学に加え病態生理学の理解が必要である。そのため、1年次に学習した解剖生理学および病態生理学の知識を看護の視点で更に深く学習し、生活行動と関連させて理解することで、健康障害をもつ対象に適した生活援助の実践につなげることをねらいとする。			
授業目標	1. 人体の構造と機能を生活・生活行動と関連づけて理解できる 2. 疾患の病態が生活・生活行動にどのように影響するか理解できる			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP6. 自ら学び続ける力を身につけることができる			
テキスト等	看護形態機能学 第4版 日本看護協会出版会 看護形態機能学 ワークブック 日本看護協会出版会			
評価方法	筆記試験：50% アクティブラーニング：50%			

回	授業内容と成果	方法
1	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
2	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
3	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
4	人が「食べる」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
5	人が「食べる」ということが障害される原因と現れる症状、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
6	膵臓・肝臓・胆管・胆嚢の疾患の病態が「食べる」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
7	膵臓・肝臓・胆管・胆嚢の疾患の病態が「食べる」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
8	膵臓・肝臓・胆管・胆嚢の疾患の病態が「食べる」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
9	人が「トイレに行く」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
10	人が「トイレに行く」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
11	人が「トイレに行く」ということに際して、どの器官のどのような機能をどのように使っているか説明できる	アクティブラーニング
12	人が「トイレに行く」ということが障害される原因と現れる症状、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
13	腎・泌尿器系の疾患の病態が「トイレに行く」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
14	腎・泌尿器系の疾患の病態が「トイレに行く」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング
15	腎・泌尿器系の疾患の病態が「トイレに行く」ということへの影響と、生活・生活行動への影響について説明できる	アクティブラーニング

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	微生物学	1 (30)	後期	柏木 孝仁
科目のねらい	医学が対象とする病気の中で、感染症は大きな比重を占めている。その原因となる種々の微生物や寄生虫などの基本的性質や生体への影響を知り、対処方法を理解する。また、近年の感染症の特徴である院内感染、新興感染症などの問題点について理解を深める。			
授業目標	1. 病因微生物の生理的特徴と病原性・感染機構が理解できる 2. 病原微生物の感染のしくみと防御機構が理解できる 3. 主な病原微生物と感染症が理解できる			
DPとの関連性	DP 1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる。 DP 3. 科学的思考に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP 4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動ができる。			
テキスト等	系統看護学講座専門基礎分野 微生物学〔疾病の成り立ちと促進〕 医学書院			
評価方法	筆記試験100%、その他出席状況により総合的に評価する			
回	授業内容と成果	方法		
1	微生物学の確立、感染症の原因としての微生物について理解できる。	講義		
2	感染と発症成立について理解できる。	講義		
3	感染と免疫について理解できる。	講義		
4	細菌の特徴について理解できる。	講義		
5	細菌の陽性菌の病原性について理解できる。	講義		
6	細菌の陰性菌の病原性について理解できる。	講義		
7	その他の細菌の病原性について理解できる。(ワクチン関連菌)	講義		
8	ウイルス学の特徴について理解できる。	講義		
9	DNAウイルスの病原性について理解できる。	講義		
10	RNAウイルスの病原性について理解できる。	講義		
11	特殊なウイルスの病原性(エボラ・エイズなど)について理解できる。	講義		
12	肝炎及びプリオン病、真菌感染症について理解できる。	講義		
13	寄生虫感染症と感染症の治療薬について理解できる。	講義		
14	滅菌及び消毒とワクチン、感染症対策について理解できる。	講義		
15	院内感染対策について理解できる。	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	保健医療論	1 (15)		
科目のねらい	保健医療全体の概要と看護学の橋渡しをするために、医療の発展や、現代医療のシステム、現代医療を取り巻く諸問題について理解できる。 保健医療を円滑に進めるための多職種間の連携について理解できる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 保健医療のあり方の変遷と現在の医療のしくみが理解できる。 現代医療の最前線と新たな課題が理解できる。 多職種連携の意義、あり方が理解できる。 チーム医療・ケアの理念を理解し、多職種の役割が理解できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP2. 人々と良い人間関係を築くことができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 医療概論 医学書院 医療福祉をつなぐ関連職種連携 北島政樹総編集 南江堂			
評価方法	記述試験80%、出席状況、授業態度、課題 20%			
回	授業内容と成果			方法
	(今村) 配点：40点			
1	医学の歴史、科学としての医学、エビデンスに基づく医療の在り方が理解できる			講義
2	わが国の医療システムと最先端医療の現状を理解できる			講義
3	医療分野における経済活動と医療政策の概要が理解できる			講義
	() 配点：60点			
4	多職種連携の必要性とチーム医療およびケアの理念が理解できる			講義
5	多職種連携のかたちと各職種の役割が理解できる			講義・GW
	医療福祉専門職に求められるものが理解できる			講義
6	事例をもとに関連職種連携の実際を体験できる			演習・演習
7	事例をもとに関連職種連携の実際を体験できる			演習・演習
8	チームマネジメントにおける課題と対応が理解できる			講義・GW

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	社会保障と社会福祉	2 (30)		
科目のねらい	看護に必要な社会資源を活用するために、生活者のくらしの実態と、生存権に根ざしたと社会保障・社会福祉制度について理解する。			
授業目標	1. 社会保障制度と社会福祉制度の具体的内容が理解できる。 2. 社会保障と社会福祉の動向と課題が理解できる。 3. 社会福祉と医療・看護との連携の意義と課題を考えることができる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果			方法
1	社会保障制度の概要が理解できる			講義
2	社会福祉を支える法制度の概要が理解できる			講義
3	社会や経済の変化と社会保障・社会福祉の動向が理解できる			講義
4	医療保障制度の沿革と医療保障制度の特徴が理解できる			講義
5	健康保険と国民健康保険について理解できる			講義
6	後期高齢者医療制度、保険診療のしくみが理解できる			講義
7	介護保険制度の歴史と介護保険制度の概要が理解できる			講義
8	所得補償制度のしくみが理解できる			講義
	年金保障制度について理解できる			講義
9	労働保険制度、社会手当について理解できる			講義
10	貧困・低所得問題と公的扶助制度について理解できる			講義
	生活保護制度のしくみが理解できる			講義
11	高齢者福祉の現状と課題が理解できる			講義
12	障害者福祉の現状と課題が理解できる			講義
13	児童家庭福祉の現状と課題が理解できる			講義
14	社会福祉援助の条件・定義と援助方法が理解できる			講義
15	社会福祉の実践と医療・看護との連携が理解できる			講義

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
1	関係法規 I	1 (15)		
科目のねらい	看護専門職者として対象の人権を護るために、人間は、法によって擁護されていることを理解し、法のしくみと看護師の責任、業務について理解する。			
授業目標	1. 法の基礎的知識が理解できる。 2. 人権に関わる基本的知識が理解できる。 3. 看護師の法的位置づけと責任が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	講師資料			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果			方法
1	法の概念や種類について理解できる			講義
2	日本国憲法における国民の権利と義務について理解できる			講義
3	人権保障の沿革が理解できる			講義
4	基本的人権：プライバシーの権利について理解できる			講義
5	基本的人権：自己決定権と尊厳死について理解できる			講義
6	保健師助産師看護師法について理解できる			講義
7	看護師の責任と法について理解できる（刑事責任・民事責任）			講義
8	医療技術の発達と人権について考えることができる			講義・演習

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	関係法規Ⅱ	1 (15)		
科目のねらい	看護専門職者として業務を遂行するために必要な法規が理解できる。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 衛生法規に関する基本的な概念を説明できる。 2. 保健師助産師看護師法と医療法について説明できる。 3. 職務遂行に伴う法的責任について説明できる。 4. 個人情報の保護と介護保険法について説明できる。 5. 看護専門職者として働く際に関係のある労働関係法規について説明できる。 6. 看護専門職者が協働する医療職者の業務が説明できる。 			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 看護関係法令 医学書院			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	保健師助産師看護師法の概要が理解できる	講義		
	看護師等の人材確保の促進に関する法律が理解できる	講義		
2	医療法および医療関係資格法の概要が理解できる	講義		
3	薬務法の各法律の概要が理解できる	講義		
4	保健衛生法の各法律の概要が理解できる	講義		
5	感染症に関する法の概要が理解できる	講義		
6	環境衛生法の概要が理解できる	講義		
7	環境法の概要が理解できる	講義		
8	労働基準法の概要が理解できる	講義		

配当年次	授業科目	単位(時間)	実務経験年数	実務経験内容
2	公衆衛生学	1 (15)		
科目のねらい	地域で生活するすべての人々の疾病予防と健康の保持増進のために、公衆衛生の理念に基づいた保健予防活動について理解する。			
授業目標	1. みんなの健康をみんなでまもることの重要性が理解できる。 2. 公衆衛生の理念、健康と生活や環境の関連性が理解できる。 3. 保健予防活動の実際が理解できる。			
DPとの関連性	DP1. 看護の対象である人間を統合された生活者として理解することができる DP3. 科学的根拠に基づき、健康状態や生活に応じた看護を実践することができる DP4. 看護師としての責務を自覚し、対象の立場を尊重した倫理的行動がとれる DP5. 看護師の役割を理解し、多職種と連携・協働できる			
テキスト等	系統看護学講座 公衆衛生 医学書院			
評価方法	記述試験100%			
回	授業内容と成果	方法		
1	公衆衛生の歴史と新たな公衆衛生の理念が理解できる 健康と人権について理解できる	講義 講義		
2	公衆衛生の活動対象と公衆衛生のしくみが理解できる	講義		
3	集団の健康状態をとらえるための指標の必要性とさまざまな健康指標が理解できる	講義		
4	地球規模の環境問題、身の回りの環境問題とその対策、健康への影響が理解できる 日本の環境行政の概要が理解できる	講義 講義		
5	わが国の感染症予防体制の概要が理解できる 公衆衛生上の重要な感染症とその対策が理解できる	講義 講義		
6	母子保健活動理念のとしくみが理解できる 精神保健の活動理念としくみが理解できる	講義 講義		
7	学校保健のしくみと展開の実際が理解できる 産業保健のしくみと産業保健活動の展開が理解できる	講義 講義		
8	健康危機管理と災害に対する公衆衛生活動が理解できる	講義		